

SAK だより

Ski Association of Kanagawa

財神奈川県スキー連盟

横浜市神奈川区台町16-1 ソレイユ台町407号室
電話 045 (311) 8907 FAX045 (324) 6966
●発行者：山田 隆 ●編集責任：内海 雄三
http://www.sak.or.jp/

「第1回神奈川県・千葉県スキー技術選手権大会」が行われる

1月25日(金)〜27日(日)、車山高原スキー場で、「第1回神奈川県・千葉県スキー技術選手権大会」が行われました。初日の予選会の参加者は、神奈川県・千葉県あわせて486人(男性410人、女性76人)。250人前後で推移していたこれまでの神奈川県単独開催に比べると、大幅な人数アップとなりました。

予選会当日は、すばらしい天候に恵まれました。完ぺきともいえるバーン整備のもとでハイレベルな戦いが続きました。ゲレンデ条件に言い訳はできません。選手は真の実力が評価されるため、スタート地点での緊張感は息をのむほどでした。

高パフォーマンス続いた決勝

これを勝ち抜き、翌日の決勝に残った選手は、男性上位150人、女性上位30人。決勝では、天候は曇りながら

もバーン状況はよく、予選会以上の高パフォーマンスが繰り広げられました。しかし、全日本レベルと比較すると物足りなさをぬぐうことができませんでした。例えば、大回りではターンとターンの間がとぎれる選手が多く、左右均等で流れるようなターン弧を描くことの必要性を感じさせました。

積極的に滑る姿勢に高得点

小回り中斜面不整地では、コブが深く硬いバーン設定に手こずる選手が多く見受けられました。あえて深いコブを避けて滑る選手もいましたが、高得点には結び付かなかつたようです。

よりレベルの高いステージでは、たとえどのようなバーン設定でも、フォールラインを外さずに積極的に滑る姿勢が求められます。こうした中、全ての種目で安定した滑りを見せたのが宮城洋二選手と永吉雪絵選手でした。両者はそれぞれ男女の優勝の栄冠を手に入れました。(取材/高木豊広報委員)



栄冠を手にした宮城、永吉選手

第39回SAJスキー技術選手権大会派遣選手

〈男子〉

宮城洋二(シーフエルSCC)、翠川和也(まつりSCC)、工藤英明(クラブ・ド・ネージュ)、小林英二(シーフエルSCC)、佐藤拓也(平塚SCC)、武田真樹(クラブ・ド・ネージュ)、小林伊芙樹(シーサイドSCC)、尾花研(東洋英和SCC)、谷川聡郎(シーサイドSCC)

〈女子〉

永吉雪絵(シーフエルSCC)、飯島久美子(エキスパートSCC)、本田万里子(横浜水道局SCC)、手塚雅世(シーサイドSCC)、工藤裕子(シーフエルSCC)、木村美代(アールベルグSCC)



女子総合優勝の永吉雪絵選手
「今回はとても楽しかったです。精神的にも落ち着いてできましたし、自分にとってはいい緊張があったので勝つたのではないかと思います。整地種目に関してはどれも頑張ってきたと思いますが、不整地に関してはちょっときびしかったですね。そんな条件でも、勝てていければいいと思います」
男子総合優勝の宮城洋二選手
「優勝できてたいへんうれしいです。ふだん通りの滑りができたことがよかったと思います。今回は天候にも恵まれましたし、バーンの状況も大変よく、条件には恵まれていました。ただコブの斜面はちょっとハードでしたね」



工藤理事（左）と菊地理事（右）

なぜ千葉県連と共催したのか

「県スキー技術選手権大会」共同開催のいきさつ

硬いバーンで県技術選を開催したい

2県が共同して「県スキー技術選」を開くのは、全国でも珍しいことです。この発端は半年ほど前。千葉県スキー連盟（SAC）から「硬い雪質のスキー場で県技術選を開催したい」との話が持ち上がったのがきっかけでした。これまでSACは、

雪質の柔らかい、福島県の高畑スキー場で県技術選を実施してきました。しかし全日本技術選は硬いバーンで行われます。これに慣れておくために、硬さでは定評のある車山高原スキー場で県技術選を行い、選手のレベルアップを図るのがSAC側の狙いでした。

他県連選手の滑りを刺激に

SACで教育本部理事を務める菊地勇二さんは、「実は93年ごろまで、東京都、神奈川県、千葉県は「南関東ブロックスキー技術選大会」を11回ほど共同開催していた時期がありました。3、4年前からは南関東ブロックが共同で車山で中央研修会を行うなど、SACとSACとのつきあいは深いのです。SACとしても技術選を共同開催すれば選手のマンネリ化を防げるし、技術的な活性化も期待できます」と話しています。

「全日本の技術選に進めない人は、他県連の選手と競り合う場がありません。ここ数年、千葉県所属で全日本の決勝に残る選手は伊藤敦全日本デモンストレーターだけ。車山で技術選を行えば、他県連選手の滑りが見れるし、硬いバーンに慣れることもできます。全体的なレベルを底上げし、準決勝に残れる選手を育てたいのです」（SACの工藤嘉明SAJブロック技術委員）。県のメーン行事を共同開催する試み

神奈川県	—	千葉県
857万人	県人口	597万人
2,415.14平方キロメートル	県の広さ	5,156.19平方キロメートル
横浜市中区日本大通1	県庁所在地	千葉市中央区市場町1-1
横浜市神奈川区合町16-1ソレイユ合町407号室	連盟事務所所在地	船橋市東船橋1-30-1
河野 洋平	会長	前田 忠夫
昭和14年2月17日	連盟創立年月日	昭和35年11月10日
平成8年5月31日	法人設立認可	なし
http://www.sak.or.jp/	ホームページアドレス	http://www2.ocn.ne.jp/~sachp/
6,825名	SAJ登録会員	2,862名
275クラブ	クラブ数	109クラブ（協会4含む）
22団体（高体連含む）	協会数	—
2,255名	指導員数	935名
車山高原スキー場	準指導員検定会場	会津高畑スキー場
36名	ブロック技術員数	19名

神奈川県



横浜市

千葉県



千葉市

話題



戸隠の「ペンションあぜりあ」の暖炉前で

「SAKとSACをつなぐ園田家」
東京都の園田夫妻は独身時代から所属する個別の県連で活動する。啓人さん（写真右）はSAC、美子さん（左）はSAKの有資格者だ。弟の啓策さん（手前）は、長野県の戸隠スキー学校で教師をしながらSAC技術選に挑んできた。「今回の技術選はスタート前にDJの選手紹介があり選手として燃えた。2県共同開催は刺激になる。合同の強化合宿があればもっといいと思う」と話す。

「SAKとSACをつなぐ園田家」
「中央研修会で顔を合わせて知ってる人はいましたが、県連のトップだけでなく、中間層同士の交流が生まれたことはうれしいことです。これが選手同士の交流につながっていくとすばらしいですね」と期待をこめて話してくれました。（取材／中里健二広報委員長、大井智子広報委員）

未来のために ジュニアを育てる

神奈川県スキー連盟では、15年前からジュニア合宿を設定し、ジュニアの強化に力を入れてきました。スキー人口減少の中、競技人口が横這いから少しの減少ですんでいるのも、その先見のかけであり、先達に感謝したいと思います。今号では、ジュニア育成の取り組みとジュニア達の頑張りについてレポートします。

第53回神奈川県体を契機に拡大

神奈川県で開催された第53回国体では、開催県として当然ながら、国体強化策が促進され、ジュニア強化の拡大も行われました。国体終了後、スキー連盟としては継続して強化を行ってきました。現在は、ザウス、八幡平、野辺山、水上とジュニアの強化合宿も4回に増え、組織をあげて育成してきました。



緊張の一瞬

ジュニア強化が大会レベルの向上に

菊地富士夫競技本部長は、育成の秘訣は、あせらず気長に、が基本という。合宿の位置付けも、モチベーションを高めるぐらいだというが、その結果は如実に現れ、ジュニア選手の目覚しい活躍によって、なんと大会全体のレベルが上がることとなり、関係者を喜ばせています。

横浜スノーメイツが好成績

県内にもジュニアを育てているクラブは多くあります。今回のジュニア大会では横浜スノーメイツが、多くの優勝選手を出しました。他にバディー、ヴィヴァント、シヨーンキッズ、秦野スキーなども、優勝選手が出ており頼もしい限りです。

雪なし県の選手も活躍できる

現在ジュニアで活躍中の選手には、お互いに切磋琢磨し、神奈川県選手として頑張つて欲しいと思います。

強化合宿に参加して

バディースキークラブ 藤井さくら

先生から、ジュニアの強化合宿に参加するように連絡があったときは、とつても嬉しくてピョンピョンその場で飛びはねていました。(笑)
でも内心みんな上手な人達ばかりなので、ついていけないかどうか、とても心配でした。秋田までバスで行くのも初めてでした。

みんな一生懸命、目標に向かって頑張っている様子を見て私もみんな以上に頑張らなきゃと、感じる事ができました。
先輩達と話したり、いろいろな人と話せて友達の輪もとても広がったような気がします。本当に楽しかったです。とても良い経験になりました。参加させていただきありがとうございました。



徳川さん



坂井さん



藤井さん

作文をいただいた皆さん。全部載せられなくてごめん

ワールドカップ・オリンピックを目指して

シヨーンキッズ 塘田 隼也

野辺山での合宿は、主にポール練習を、小・中・高校生と一緒に練習しています。先輩達と一緒にリフトに乗っている時、技術的なアドバイスをしてもらい良い助言になりました。

合宿に参加して驚いたことは、隣のコースでジャパンチームが練習していたことです。

目の前で滑りを見て、SLのスピードとポールを倒す音のものがすごく驚きました。この滑りに近づくため、も

っとたくさん練習が必要であると実感しました。また、宿が同じになることがあり、木村公宣、平沢岳選手とお風呂で一緒になったとき、両選手の筋肉質の体格を見てびっくりしました。やはり、世界大会のバーンで滑るにはこれだけの筋力が必要であることを認識しました。

僕は、雪なし県の選手ですが、ジャパンチームのウェアを着て、メーカーから板をもらい、サーピスマンが付いて、ワールドカップやオリンピックに出られる選手になりたいです。そのため、毎日、陸上トレーニングに励んでいます。

スノーボードと私

自衛隊スノーウエーヴ 峰 哲幸
スキーとボードの共存を

ウインタースポーツといえばスノーボード、という具合に今ではすっかり若者を虜にし、長野オリンピックで正式採用されてからは、市民権を得たような気がします。

さて、そのスノーボードも、私が始めた14年前は、スキーヤーから見ればまだまだよちよち歩きの赤ん坊のようなもので、ゲレンデで転がっていると邪魔者扱いされ、時にはスキーの先端で雪をかけられたこともあり、悔しい思いをしたものです。この頃からスキーヤーとスノーボーダーお互いが理解しあい、共存共栄できるようにしたいと考え始めました。

スノーボードに夢中

そもそも、私がスノーボードに夢中になったのは、友人のスキーの買い物に付き合わされてからです。その店で、何気なくスノーボードのビデオの空中回転を見て「ウインドサーフィンのおフトレにいい」と感じたからです。最初は「すぐに乗りこなしてやるぞ」と意気込んだものの「停止⇨転倒」の繰り返しで、お尻と膝はいつも真っ赤になり、時には頭を打って記憶喪失になることもありました。そんなことを繰

り返しながらも、シーズンの終わる頃には、コースの端の壁でジャンプし、空中回転する程になりました。

古い友人から「なぜ、あんなに夢中になっていたウインドサーフィンを止めたの？」とよく訊かれますが、それはスノーボードは練習すればするだけうまくなるからです。当たり前の話ですが、ウインドサーフィンは、風がなければ練習になりません。休みだからと海に行っても、一日中ボートとして終わることがよくあり、不完全燃焼になることもしばしばありました。しかし、スノーボードは室内スキー場などの普及により、年中練習ができるのです。室内スキー場がない頃でも、草津の白根山や長野の乗鞍岳などで、8月まで残雪で練習していました。

ポールとの出会い

そんな私も、ゲレンデで一番うまいと思いきんでいたある日、友人の誘いでポールの練習に参加させて頂くチャンスがありました。

「こんな簡単なだ！」と軽い気持ちで入ったところ、まったく回っていきません。すっかり天狗になっていた私は、見事に鼻っ柱をへし折られた気分でした。

それからはずつかりポールにのめりこんでしまい、どこのゲレンデに行っても、ポールを意識した練習をしました。しかし、ポールはどこにでも勝手

に張るわけにはいきませんので、人の少ない所に行つて、その辺に落ちているものなどをゲレンデに並べて練習しました。その後、ポールとドリルを購入し練習しましたが、あるレベルでいきづまってしまいました。そこで、県スキー連盟所属のスノーボードチーム「ブラフ46」の門をたたき入部させて頂きました。

同チームの橋本氏をはじめ、バートンプロの松島氏（アップサイドダウン）や川崎ガイヤの長谷川デモラの厳しい指導により、全日本に出場できるほどになり、また、指導員・検定員・審判員などの資格を取得することができました。

また、当時、競技者としての私にも、3社のスポンサーが付き、今でもボードを提供して頂いているゴッデススノーボードのおかげで、昨シーズンは全日本スノーボード選手権ジャイアントスラロームシニアの部において見事優勝できました。私にとって本当に嬉しかったのは、一般の部の優勝タイムと同タイムであったことでした。しかも自分でチューンナップ、ワクシングをしたボードで結果を出せたからです。

役員として

このような貴重な体験をもとに、今度は地域からの協力依頼が増え始め、私も力になれることは、できるだけ協力するようになりました。そのため、

横浜から横須賀スキー協会所属の自衛隊スノーウエーヴに所属を変更し、横須賀スキー協会のスノーボード部長として、協会主催のスノーボードスクールや冬季市民大会の役員を担当。神奈川県スキー連盟のスノーボード専門委員として、神奈川県指導員養成、強化コーチ、競技運営委員長として大会運営に当たりました。また選手として全日本予選関東大会ではスラロームシニアの部で優勝し、ジャイアントスラローム、スラローム共に全日本への出場資格を得ました。選手と役員の両立は難しいですが選手の気持ちが一番わかる役員として、これからも頑張っていこうと思います。





新役員体制の下で

幹事長 大山重彦

スキーシーズンもようやく峠を越え、春の匂いが感じられるようになりましたが、会員の皆様には健やかな日々をお過ごしのこととお喜び申し上げます。今期の役員改選にあたり、幹事長を引き受けることになりましたが、私共々当指導員会に対しまして、今まで以上のご指導ご協力をお願いいたします。

当指導員会は何よりも会員の皆様に満足していただける事業を展開することを第一義に考えております。その一つとして今期からホームページを開設し、新しい情報をいち早くお届けできるようにになりました。また、ゴルフコンペは指導員会創立20周年記念大会として名門の大箱根カントリークラブでの実施を計画中です。更に、協賛スキ

ー場もふじてんスノーリゾート・小海リエックスが加わりました。今後この姿勢を崩さず、神奈川県スキー連盟及び日本スキー指導者協会との協調関係を深めながら、皆様に期待されるより良い事業を模索していく覚悟です。

行事レポート

シーハイル！

第15回特別研究会
平成14年1月25〜27日
会場 車山高原スキー場

参加者146名で、各班をビデオに納め懇親会での指摘は好評でした。天候も良く、最高のコンディションで行事が行われました。



第2回車山チャレンジカップ
平成14年2月16日
会場 車山高原スキー場

第2回車山チャレンジカップは、快晴無風の車山高原スキー場で開催されました。参加選手245名。

頂上から下がった長いパノラマコースで行われ、事故者も無く無事終了。なお、準指養成班の女子51名の平均タイムは一分四〇秒八〇、男子137名の平均タイムは一分三五秒九五。

組別成績（入賞者のみ記載）

- 女子 マスターズ①山崎芳子②白井嘉子 指導員①室井正美 一般二組①荒井陽子②石川賀子③渡辺康子 一組①鈴木美香②関根誠美③春日雅美 準指養成二組①澤野智美②西畑久美子③小野尚美 一組①門倉雅美（女子ラップ一分三〇秒二六）②大塚敦子③野中美樹

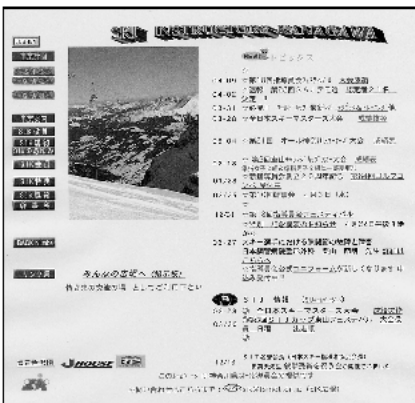
- 男子 マスターズ五組①木所実②志村喜夫③内田鉄蔵 四組①須田恒男②角田高一③青木規生 三組①福澤洋治②石川恒男③大澤佑吉 二組①加藤勲②二ノ宮勝行③岩崎照夫 一組①高澤一二（男子ラップ一分一三秒九五）指導員三組①鈴木雅樹 二組①高橋裕武②隅秀敏③寒川勝己 一般三組①野村昭仁②牧英彦 二組①森谷潔②伊藤通世③清水駿助 一組①伊藤将準指養成五組①佐藤諱一②長谷部強③尾形幸雄 四組①上杉一哲②竹内雅二③三浦

徳生 三組①木村隆②五通貴司③鈴木忠信 二組①二ノ宮岳②竹本雅詔③守屋匡裕 一組①竹内文崇②藤本晋也③横内伸一



神奈川県スキー指導員会 ホームページ開設のお知らせ

URL: <http://www.fsmel.or.jp/~sik/index.htm>です。神奈川県スキー連盟のホームページは <http://www.sak.or.jp/> のリンク集からもたどれます。各行事の申込書も載っています。



成年男子(6kmリレー・3区間)
 1位 横浜市
 2位 相模原市
 3位 川崎市
 4位 横須賀市
 5位 厚木市
 6位 大和市
 1位 中井町

◎第10回神奈川県スキー選手権大会(技術系種目)
 会場：上越国際スキー場
 日程：3月8日(金)～10日(日)

「女子チルト」
 1位 藤本 千枝 (湘南キッズ)
 2位 井出 晶子 (湘南キッズ)
 3位 平賀重里紗 (湘南キッズ)
 4位 高松生 (湘南キッズ)
 5位 原田 聡美 (関東学院高)
 6位 関 美和子 (関東学院高)
 7位 湯田あずさ (桐光学園高)
 8位 川上 沙織 (関東学院高)
 9位 齊藤 綾 (桐光学園高)
 「女子成年」
 1位 山田かすみ (川崎スキークラブ)
 2位 奥田 史子 (TBMスキー)
 3位 田中 英里 (自衛隊スノーウエーヴ)
 4位 前田恵美子 (湘南スノースポーツ)
 5位 吉田 陽子 (厚木SC)
 6位 吉田 浩子 (富士通)
 「女子成年B」
 1位 若澤 愛子 (厚木自衛隊)
 2位 水野みどり (厚木自動車)
 3位 佐藤 由美 (富士通)
 4位 久津輪真理 (厚木自衛隊)
 5位 杉本 博美 (TBMスキー)
 6位 中岡 玲子 (TBMスキー)

6位 市川 敏行 (アールベルグ)
 「成年男子B」
 1位 青島 浩郎 (東芝)
 2位 小島 智之 (キヤノン)
 3位 申崎 陽平 (いすゞ川崎)
 4位 北野 教文 (TBMスキー)
 5位 田中 弘人 (湘南キッズ)
 6位 佐藤 弘人 (てんぐSC)
 「成年男子C」
 1位 川村 剛 (TBMスキー)

2位 橋川 康宏 (リベンSC)
 3位 津田 康男 (東芝)
 4位 松浦 誠典 (リベンSC)
 5位 高沢 一 (アールベルグ)
 6位 高木 純正 (ソニー厚木)
 「女子チルト」
 1位 藤本 千枝 (湘南キッズ)
 2位 田所 冬美 (ワイヴァント)
 3位 森 美波 (ワイヴァント)
 4位 平賀智菜菜 (相嘗SC)
 5位 小山あゆみ (ワイヴァント)
 「女子成年」
 1位 井出 晶子 (湘南キッズ)
 2位 平賀 安奈 (湘南キッズ)
 3位 平賀重里紗 (湘南キッズ)
 4位 関 麻美子 (湘南学院中)
 5位 三浦 奈々 (SCドラゴン)
 6位 小林明日香 (ヘルク・カネ)

1位 水吉 晋総 (神奈川県)
 2位 小畑美由紀 (神奈川県)
 3位 小沼みはる (神奈川県)
 4位 手塚 雅世 (神奈川県)
 5位 高島奈緒子 (神奈川県)
 6位 高島奈緒子 (神奈川県)
 「女子」
 1位 翠川 和也 (神奈川県)
 2位 武田 真樹 (神奈川県)
 3位 小林 秀雄 (神奈川県)
 4位 尾花 研 (神奈川県)
 5位 石井 淳也 (神奈川県)
 6位 村野 寛 (静岡県)

1位 黒羽秀之助 (城山高)
 2位 峯岸 遙 (慶応義塾高)
 3位 赤田 結太 (慶応義塾高)
 4位 佐々木宗昭 (慶応義塾高)
 「成年男子A」
 1位 児玉 尚亮 (慶応義塾大)
 2位 福山 誠人 (個人)
 3位 町野 正佳 (NEC玉川)
 4位 世良雄一郎 (神奈川県)
 5位 佐奈 洋彦 (ソニー厚木)
 6位 恩田 真也 (SCカメ)
 「成年男子B」
 1位 石川 好之 (富士通)
 2位 北野 教正 (TBMスキー)

◎第17回野辺山林スラローム大会(オープン競技)
 会場：野辺山スキー場
 日程：4月5日(金)～7日(日)
 「回転2連戦」
 1位 森川 順子 (クラブ・ド・ネージュ)
 2位 平賀重里紗 (湘南キッズ)
 3位 若澤 愛子 (厚木自衛隊)
 4位 梅沢 美樹 (アイトSC)
 5位 高井 美奈 (関東学院高)
 6位 水野みどり (日産車体)

◎第1回環富士山スキー技術選手権大会
 会場：五電スキー場
 日程：3月16日(土)～17日(日)
 「女子」
 1位 永吉 晋総 (神奈川県)
 2位 小畑美由紀 (神奈川県)
 3位 小沼みはる (神奈川県)
 4位 手塚 雅世 (神奈川県)
 5位 高島奈緒子 (神奈川県)
 6位 高島奈緒子 (神奈川県)

◎B級級検定員合格者
 期日：2月22日(金)～24日(日)
 第1会場(朝里川温泉スキー場)
 小林孝 鈴木雅樹 西澤祐一 河田清志 鈴木雅樹 深澤祐一 藤田正春 坂岸義雄 大塚九正 田中洋一 三友正夫 小川規恵 鎌田 山本賢 若山昌弘 河野千寿 和田香裕文 岡崎彰哉 大塚浩幸 稲田文雄 中平忠哉 浜田忠男 笠井正美 成沢恵美子 伊藤直子 土屋靖子 青木幸子 細野千穂子 鎌本洋志 第3会場(湯沢高原スキー場)
 大塚浩幸 高橋功一 高橋大介 高橋裕政 宮代勝道 三枝郁夫 土屋直樹 藤田賢一 久富良二 西島大祐

◎C級級検定員合格者
 期日：3月8日(金)～10日(日)
 第1会場(朝里川温泉スキー場)
 小林孝 鈴木雅樹 西澤祐一 河田清志 鈴木雅樹 深澤祐一 藤田正春 坂岸義雄 大塚九正 田中洋一 三友正夫 小川規恵 鎌田 山本賢 若山昌弘 河野千寿 和田香裕文 岡崎彰哉 大塚浩幸 稲田文雄 中平忠哉 浜田忠男 笠井正美 成沢恵美子 伊藤直子 土屋靖子 青木幸子 細野千穂子 鎌本洋志 第3会場(湯沢高原スキー場)
 大塚浩幸 高橋功一 高橋大介 高橋裕政 宮代勝道 三枝郁夫 土屋直樹 藤田賢一 久富良二 西島大祐

◎各種検定員等合格者
 ・パトリール合格者
 辻内賢一、久保田早苗、野村緑、井上麻紀子、佐久間恵、山崎英一
 ・スノーボード指導員合格者
 才木忠士
 ・スノーボードSAK指導員合格者
 渡辺有紀、今井直美、芝頭三平、野野貴也
 ・基礎スキー功労指導員
 斎藤正三、上田吉明
 ・基礎スキー功労指導員
 坂本和夫、川澄浩
 ・名誉検定員
 吉岡幹雄、佐藤嘉彦
 ・テラカフルブライズメスト合格者
 安藤文裕、広庄則之、見上大介、千田康洋、山本忠

◎各種検定員等合格者
 ・パトリール合格者
 辻内賢一、久保田早苗、野村緑、井上麻紀子、佐久間恵、山崎英一
 ・スノーボード指導員合格者
 才木忠士
 ・スノーボードSAK指導員合格者
 渡辺有紀、今井直美、芝頭三平、野野貴也
 ・基礎スキー功労指導員
 斎藤正三、上田吉明
 ・基礎スキー功労指導員
 坂本和夫、川澄浩
 ・名誉検定員
 吉岡幹雄、佐藤嘉彦
 ・テラカフルブライズメスト合格者
 安藤文裕、広庄則之、見上大介、千田康洋、山本忠

編集後記

今シーズン、雪上行事でプレスの文字が入ったジャケットを目にしたあなたは運がいい！来シーズンも広報委員は雪上行事に出かけていきますので、見かけた方は是非声をかけて下さい。現広報委員での作業はこの号にて終わります。短い期間でしたが楽しく活動することが出来ました。ありがとうございました。

SAKトップに 直撃インタビュー

第2回

取材 守谷紀幸広報委員
三浦亜矢子広報委員

前回に引き続き、神奈川県スキー連盟専務理事の山田隆さんへの突撃インタビューです。

今回は、山田さんがスキーを始めた頃のあれこれを語ってもらいました。

スキーとの出会いは意外に奥手？

生まれは、横浜です。スキーを始めしたのは、意外に遅くて学生になってからで、大学1年のときに1級に落ちた。これではいけないと思い、2年のときに1級合格、3年では県内トップで準指に合格した。当時は、トップ合格すると、ご褒美で全日本技術選手権に予選なしで行けた。それがきっかけで、スキーにのめり込むことになったんだね。

就職を蹴つてまでスキー？

大学4年のとき、竹中工務店に就職が決まっていたが、松浦さんに「3年やれば、デモになれる」とおだてられ

て、その気になってしまい、就職を蹴つてしまった。そして、本当に3年でデモンストレーターになってしまっ

た。しかし、当時のデモでは、食べていけない。あれは、フランスに留学していた、そう、1972年のこと。何でこの年だけ覚えているかというところ、当時よくトレーニングをしていたロニヨンの駅が標高1972mだったのによく覚えているんだ。そのころ、ミシンを使って帽子を作ったり、編物をするのが好きで、結局それが商売になってしまったんだね。今でも、大工仕事は好きだし、趣味は花作りなんだな。

意外！山田さんの手編みのセーター

デモ選に手編みのセーターを着ていたら、とても受けたんだね。大学出の初任給が25,000円のころ、そのセーター1枚で、7,000円儲かった。がんばれば、1日に2枚セーターが編めるから、2日で4着作れば28,000円になる。だから、サラリーマンになる気はなくなっちゃったね。

子供のころは、家から皮のスキー靴を履いていった。中学生のころ、両親が夜行でスキーに連れて行ってくれた。人のスキーを見て親父が、あれがエッジというもんだと教えてくれた。僕なんかのは、エッジなんか着いていない。当時のスポーツ用品店で、2本のスキーの両サイドにエッジを着ける

と250円（！）もしたんだ。スキーのためなら歩くのも何のその！

当時、最高のスキーといえば、クナイスルのホワイトスターという真っ白なスキーだったんだけど、これが65,000円したんだ。それで、そのスキーがほしくて、当時、東京の新井薬師に任んでいたんだけど、そこから早稲田までバスの往復で15円だった。それを2年間歩いたりして、42,000円貯めて、そいつを買ったんだ。そうしたら、親父にえらく怒られたなあ。「そんな、俺でもなかなか買えないものを学生の分際で買いやがって」ってね。

検定会の妙とデモの心構えとは！

26歳の時から準指検定員を30年以上やっている、県連の役員のほとんどは僕が検定をやったといってもいいと思う。だいたい8割の検定はやってきた。検定会場では、知っている人とはなるべく話をするようにしているが、それが、何か一部の人をひいきしていると誤解されることがあるようだ。困るよね、スキー場で誰とも話しができないなんて、さびしくていけないよね。

最初、正指を受けた年、発表会場でお呼びがかかったのが本部へ行ってみると、実技はトップだったが、受験態度が悪かったので落とされた。当時のえらい人に言われた。そのとき、教程の

出そうところを破いてポケットにねじ込み、リフトの上でそれを引っ張り出して順番に勉強していったんだが、神聖な教程を破つたのはけしからんとおこられたってわけだ。

次の年、デモになった。デモ選の判定会議がもめたらしいんだが、僕の素行が原因だというんだ。メーカーの部長さんが来て、順位がだいたいぶ落とされたんじゃないかと教えてくれた。30人がデモに選出された表彰式で、全日本の教育本部長に説教じみたことを言われたので「どこにそんな根拠があるんですか」と反抗したら、本部に呼び出されて1時間正座させられた。そんな時代もあったんだよ。25歳の時かな。



自宅前にて

まだまだ、含蓄のある面白い話がづくいたのですが、紙面の都合でとても全部は掲載できません。知りたい方は、直接ご本人にお聞きください。とてもフランクな人柄の山田さんですよ。